

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れる介護を心掛けるという理念を掲げ、利用者本位の介護に力を入れている。また、地域の一員としての施設を目指し、地域の行事へ積極的に参加する等、地域との関わりを大切に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平成23年4月に足利市西部の現在地に開所し、同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所が隣接している。すぐ近くに郵便局や公民館があり、町の中の便利なところにある。公民館の文化祭に利用者の作品を展示したり、地域の祭りで子ども御輿が敷地の中まで来てくれたり、運営推進会議をきっかけに自治会長が紹介してくれた大正琴やよさこいなどのグループがボランティアで来てくれたりなど、地域の人との交流がなされている。災害対策においても避難訓練に地域の人参加を得て地域の協力体制作りが進んでいる。理事長、管理者、職員が一体になって「家庭的な雰囲気を大切にし利用者一人ひとりが楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がける」という事業所理念の共有に努めながら利用者の支援を行っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気を大切に利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心掛けるという理念を掲げ、管理者、職員一丸となり実践に取り組んでいる。また、理念は事務所に掲示しており、いつでも確認できるようにしている。	事業所理念は玄関脇の事務室壁のいつでも職員の目に入る位置に掲示しており、定例会議においても確認し振り返るようにしている。新入職員にも必ず説明し、全職員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。また、公民館の文化祭、町内清掃、地域の神社清掃等、地域の行事に積極的に参加をしている。利用者外出の際は、地域の方と挨拶や会話をする等交流を図っている。	自治会に加入し活動に参加している。町内の祭りでは子ども御輿が敷地内に来てくれる。隣の公民館での文化祭に利用者の作品を展示するなど大きく交流がある。地域のボランティアも毎年訪れ利用者を楽しませてくれている。近所から季節の物の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族から相談を受けた場合助言をしている。また、運営推進会議を通して、自治会長、民生委員、家族に対して理解を深めてもらうよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時は事業報告、今後の予定など話し合っている。また、情報、意見交換なども行っている。その際、参加者から意見があれば今後のケア、施設運営に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族代表、自治会長、民生委員、市担当職員、今年からは福祉委員の参加のもと開催している。一昨年には消防職員の出席も得た。避難場所の提案など毎回活発な意見をいただきサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を生かし情報交換を行っている。また、随時、課題解決に向けた話し合いなど行っている。	市担当職員は毎回運営推進会議に出席し情報や助言をくれるほか、必要の都度こちらから市に出向いたり電話などで相談しており、連携が取りやすい関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。職員会議の際に、身体拘束をしないよう周知し、話し合っている。四本柵、抑制帯、玄関の施錠などはしていない。	言葉の抑制も含め、身体拘束をしないケアについて会議を始め日頃から職員に話している。また、職員は利用者に対して、人生の先輩であることを常に念頭に置き、自分が嫌だと思ふことはしない姿勢で接している。	身体拘束をしないケアに事業所全体で取り組んでいる姿勢がうかがわれるが、さらに、してはいけない具体的な行為など職員が深く勉強できる機会が得られるような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴、着脱介助時などにボディチェックを行い利用者の状態を観察し、把握できるよう努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてNPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、本人や家族に納得してもらうよう心掛けている。また、不明な点や疑問点などないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の面会時、月1回の支払いの時に家族とできるだけ話をし、意見や要望などないか聴くようにしている。また、玄関には意見箱も設置している。施設行事の際には家族に声をかけ、参加してもらい、その機会に意見、要望を聴いている。	運営推進会議で家族代表から意見を聞いている。随時の面会来所時のほか、毎月の利用料支払いや行事での来所時等に家族から意見・要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に意見を聴き、運営に反映させている。会議以外でも、問題などあった場合は、随時職員の意見を聴いている。素早く問題解決に向けた対応ができるよう心掛けている。	定例会議や申し送りの際、及び、日常業務の中で職員から意見・要望・提案など聞いており、管理者と職員の意思疎通が図られている。褥創予防の工夫や一日の時間割り表のリビングルームへの掲示、家族向けに玄関にホワイトボードの設置など職員からの提案が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績などを反映し、業務評価表を基に給与、賞与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には勤務当初、他の職員と組み業務に入り、業務に慣れてもらうようにしている。施設外研修では、口腔ケア研修会など、研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内で研修会や交流会を行っている。同グループ以外の交流などは行っていない。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前訪問の時、本人の意思、思いを必ず聴くようにしている。本人が安心して施設利用を開始できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の困っていること、不安に思っていることを聴き、適切に助言でき、サービスに繋げることができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人、家族にどのようなニーズがあり、どのような支援が必要か見極めるようにしている。そのうえで、その人に合ったサービスを利用支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を見極め、利用さにできる事はやってもらうよう心掛けている。日常生活に役割を持ってもらい、日々の生活に張りを持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態に応じ、家族と適時話し合っている。また、施設行事の際は参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連絡を密にしている。盆、正月など自宅に戻る、主治医の受診に連れて行ってもらう等、家族に協力してもらっている。コミュニケーション時に馴染みの場所、店など聴き、出かけられるよう努めている。	家族や友人、知人の面会などを促進しているほか、入居前調査や入居後本人から聞いた情報をもとに、スーパーや公園など本人の馴染みの場所に出掛けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性、相性、残存機能など把握し、お互いに支え合うことができるよう支援している。座席の位置、レクの時のグループ分けなど配慮している。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設利用になり退所する利用者がある時は、新しい入所先へ情報提供等行い、スムーズに入所できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のニーズを把握し、利用者本位の介護を心掛けている。把握困難な時は、職員間で話し合ったり、家族に話を聴いたりして情報の共有をし、その人に合った介護ができるよう努めている。	利用時に聞き取りをして、本人の希望や意向を把握している。入居後も状態の変化にあわせ出来る事・出来ない事を把握して、希望に沿った支援を行うように職員会議で話し合い共有に努めている。入浴支援の時などの自然な会話の中から本人の気持ちを聞くよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の時に生活歴を本人や家族から聴き把握するよう努めている。また、利用開始後も日々の関わりの中で、情報収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議の時に利用者について職員で話し合い、現状での利用者のニーズ、残存機能の状態等把握し、共有している。それに基づき、本人本位の生活が送れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を反映しケアプランを作成するよう心掛けている。また、職員の意見も取り入れ、臨機応変に対応できるよう心掛けている。	本人や家族の意向を確認し職員の意見を聴き、担当者与管理者で担当者会議を行い介護計画を作成している。定期的な見直しは半年毎に行なうが、本人の状態の変化など必要に応じ臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表、日常生活チェック表、業務日誌等に日々の様子を記録している。職員は自由に見ることができ、情報の共有を図っている。ケアプランの見直しの際は、それらを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時々状況、状態に合わせて、ニーズを把握し、臨機応変の対応ができるよう努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公民館で開催される文化祭に作品を出品したり、避難訓練で地域住民に協力してもらったりと安全で豊かな暮らしを送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。主治医を変える時は、本人、家族の希望があり、同意が得られれば変更している。	基本的には従来からのかかりつけ医のままであるが、事業所の協力医が月に1回往診しており、希望で協力医に主治医を変更する利用者もいる。緊急時は家族に話して職員が付添い、メモを通して事業所、医師、家族の情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内では看護師を配置していない。利用者の健康管理に関しては、かかりつけ医やその看護師と緊密に連携をしていく事を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、主治医と相談し決定している。入院に必要な情報提供は医療機関にしっかり行っている。退院の時は、病院のソーシャルワーカー等と連携し、スムーズに退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時に十分説明し、理解してもらおうようにしている。現状ではターミナルケアが必要になった場合は、家族や医療機関、施設で話し合い対応することになっている。	重度化した場合・終末期の対応については、本人・家族と入居契約時に事業所の可能な範囲など説明し方針の共有に努めている。今のところ看取りは無理で、実績もないが、必要になった場合には医師、家族、事業所に対応を考えることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については定例会議の時に話している。また、事務所には緊急時の対応手順を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、年2回避難訓練を実施している。その際、地域住民の参加もあり、協力体制ができています。夜間想定避難訓練も実施できています。	消防署立会いも含め年2回防災(避難)訓練を実施している。今年度から夜間想定訓練を加えた。また、地域に呼びかけ、隣組の3名の方の避難訓練参加が実現した。	夜間想定訓練や地域の人の訓練参加協力実現等事業所の災害対策への前向きな姿勢がうかがえる。さらに、水や食料等の備蓄についても期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの介護にならないように言葉遣いには常に注意している。また、プライバシーにも配慮した声掛けの仕方を心掛けている。	利用者の人格を尊重して苗字や名前に「さん」付けて呼んでいる。トイレ誘導の時も本人のそばに行き小声で促すなど、利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。方針は会議等でいつも確認している。個人記録等は事務室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを積極的にとるよう心掛けている。信頼関係を築き、意思表示が難しい利用者でも、普段の様子で気づき対応できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者一人一人のペースに合わせた介護を心掛けている。起床、就寝時間等、できるだけ利用者のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合わせた服を着てもらおうようにしている。また、月1回訪問散髪があり、希望者は利用し、カットやカラーをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳の仕方などおいしく食事を提供できるよう工夫している。メニューは利用者の希望を盛り込むなど、利用者と一緒に決めている。	車イス使用の利用者が多く、買出しや調理、盛り付けは職員が行うが、食事は利用者・職員が会話をしながら楽しんでいる。食器洗い・拭きを出来る利用者は手伝う。メニューには利用者の希望を反映している。出前の日を設けたり季節の食事、外食など楽しく食べられる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を記録し、常に利用者の状態を把握している。週1回の体重測定も実施しており、健康管理に役立っている。食事の形態も、利用者の状況に合わせて食べやすいよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、自歯、義歯の手入れをしている。自分でできる利用者は自分で行ってもらおうようにしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録しており、排泄パターンを把握するよう努めている。利用者一人一人に合った排泄介助を心掛けている。	職員は個別の排泄パターンと仕草を把握しており、個々に合わせてさりげなく声かけし、誘導している。自力で行ける方にも時間を見て声かけしている。リハビリパンツやパットなど利用しながら排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を行い、便秘予防に努めている。また、食物繊維の多い食材を使う等工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、その時の利用者の体調や常態によって変更する等、臨機応変に対応している。入浴剤を使用する等、楽しんで入浴できるよう努めている。	基本的に週2回午後、入浴しているが、個々の体調等に合わせて変更し、車イスの方や夜しか入りたがらない人にも対応している。入浴拒否傾向の方には誘い方を工夫するなどしている。季節に応じてゆず湯や入浴剤の種類をかえて、ゆったりと楽しめる入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握することに努め、その人に合った起床、就寝時間で対応するよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬を把握し、理解するよう努めている。また、服用している薬の説明書きを事務所に保管しており、いつでも閲覧できるようにしている。服薬介助の時は、誤薬がないようしっかり名前を確認する事を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にその人に合ったレクリエーションや役割を持ってもらうよう努めている。タバコを吸う利用者は、本人の希望時にタバコを吸えるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回は外出行事を企画し、外出する機会を作っている。また、それ以外でも、天気の良い時は散歩に出るなど外出する機会を増やすよう努めている。	月に1度は外出を企画し、グループ内他施設のリフト車などを活用し、家族にも声をかけて協力してもらい、買い物や外食・花見など外出を楽しめる支援をしている。また、天気の良い日には近くの公民館に出かけたり、近隣の散歩をするなどしている。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金をしており、買い物や外食などの時、そこから支払いをしている。買い物に利用者と一緒に行くときは、利用者に支払いをしてもらう等対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望がある場合には対応している。年賀状は本人に書いてもらい、それを家族に送ることをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけを行うようにしている。共用空間は清潔保持を心掛けている。臭気対策として、消臭剤の設置、空気清浄器の設置をしている。施設内は過ごしやすい温度設定にしてある。	リビングには空気清浄器や加湿器が完備され明るく快適で清潔な空間になっている。臭いもなく室温も適切になっており居心地よく過ごせるよう工夫している。また、暖かな光が差し込む量の間では利用者が寝転んだり、洗濯物をたたんだり、家庭的に休んでいる。落ち着いた木材の床であり、白い壁には利用者の習字・色鉛筆画が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が好きな時に好きな場所で過ごせるよう椅子や机を移動するなど工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具、使い慣れた道具など持ち込んでもらい、自宅と同じような雰囲気づくりに努めている。	居室は職員が毎日掃除をし、清潔になっている。ベッド・タンスはホームのものであるが、使い慣れた寝具や姿見鏡台・身の回りの物が持ち込まれ、家族の写真を飾って、居心地のよい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前が書かれていて、自室がわかるようにしてある。また、自室を常に気にする利用者のために、自室の場所が一目でわかるよう目印をしてある。トイレは、わかりやすいよう看板を掲げてある。		